

食物アレルギーの児童生徒および園児をもつ保護者への支援ニーズに関する研究

渡辺香織、西澤早紀子、鋤柄悦子、安藤京子

愛知文教女子短期大学

【目的】食物アレルギー（以下、食アレ）に関しては、様々な社会的対応が進んでいるが、保育園と小学校における対応の違いに戸惑う保護者の声も多い。栄養教諭は小中学校において食アレの児童生徒を理解し、それを通じて保護者を支援する立場にあり、今後そのニーズは増えていくと考えられる。そこで本研究は、食アレの児童生徒および園児をもつ保護者の支援ニーズを明らかにすることを目的とした。

【方法】アレルギー患者支援イベント参加の、食アレ児の保護者を対象に対面で自記式アンケートを実施した。内容は、通園・通学先での食アレ対応状況、食アレに関する主な情報源、インターネットサイトでの情報提供への期待度、栄養士・給食担当者に期待する対応、保育士・教諭に期待する対応等である。66通の質問紙を回収、このうち保育所等および小中学校へ通っている子どもの保護者の回答 46 通を分析した。また、保育所等に通う子どもの保護者（20 人、以下「園児保護者群」と小中学校へ通う子どもの保護者（26 人、以下「児童生徒保護者群」）の 2 群で χ^2 乗検定を行った。

【結果】保護者全体では、食アレの主な情報源は「かかりつけ医師」が最多で 95.7%（44 人）、次いで「インターネットサイト」が 52.2%（24 人）であった。2 群比較の結果、「インターネットサイト」では「児童生徒保護者群」が「園児保護者群」より有意に多かった（ $P<.05$ ）。「園児保護者群」が保育士に期待する対応では「他の子どもたちにも理解を促して欲しい」「子どもの様子をしっかり見て欲しい」等、「児童生徒保護者群」が教諭に期待する対応では、「食物を扱う授業や学校行事を事前に知らせて欲しい」「調理実習、行事に参加できるようにして欲しい」「定期的に面談して欲しい」等が挙げられ、入学後も支援が求められていることがわかった。

第 2 回栄養教諭食育研究会で発表